令和４年度　　授業改善推進プラン　２ 年　英　語 科

１　日常の学習状況・課題について

（１）授業への取り組みはおおむね良好で、９割の生徒が説明をよく聞き取り、板書もわかりやすいと答えている。その半面、説明がわかりやすいと感じている生徒は８割弱となっている。理解度には個人差があり、１年次の内容でつまずいている生徒も少なくない。アンケートからは授業が楽しく、できるようになりたい、という向上心のある肯定的な意見も多い。その気持ちを活かし、継続させつつ、結果へと結びつかせる必要がある。

（２）提出物は概ね期限を守って出すことができているが、取り組むこと自体を諦めている生徒もいる。できる課題であることを確認し、出せた、できたという達成感を経験させ、基礎的な「書く」「写す」作業に対して積極的に取り組む姿勢を育む必要がある。

（３）４人組でのグループ活動、ペア活動を帯・中心となる活動に取り入れるようにしており、約８割が役立っていると答えている。コロナ禍により、昨年度はコミュニケーション活動を控えていた。英語を使って意見を交流する場面が少なく、個人的な発信・作業が多かったため、英文を「話す」「聞く」ことに対して苦手意識をもっている生徒が多い。

（４）長文問題の理解に苦手意識をもつ生徒も多く、帯活動として年間５０回程度、まとまった英文を読むトレーニングを実施している。また、教科書の長文読解に取り組む際にも４人組を取り入れ、わからないことを気軽に聞き、高め合える環境づくもしている。

２　改善の計画

（１）学習面

①帯活動で「聞く」「話す」「読む」活動を取り込み、苦手分野への抵抗感をなくす。また、授業で学んだことをアウトプットする体験を通して印象付け、より記憶に刻まれるようにする。

②定期的に単語及び聞き取りテストを実施し、定着の確認をする。定期テスト毎に学習のめあてを細かく確認し、到達度を生徒自身が定期テストの前に実感できるようにする。また、予習を徹底させ、テストに向けた自習活動を含んだ家庭学習時間の増加を図る。

③４人組を効果的に取り入れ、興味・関心を引き出し、助け合いによる理解の深まりと達成感を得られるようにする。

（２）指導面

①提出物や日々の宿題の点検、授業中の机間巡回を通してきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上をめざす。声を発し、やり取りをする活動を多く取り入れ、苦手意識のある「読む」「書く」活動を含めた４技能をバランスよく習得できるようにする。パフォーマンステストを学期に１回は実施し、筆記テストだけではなく、幅広い表現を使う機会を設ける。

②　ICT を活用し、授業の効率を高めると共に、教材・教具・指導方法に工夫をし、生徒の意欲、関心を高める。また、生徒が安心して学習し、質問できるような授業の雰囲気づくりや教員との信頼関係を構築する。

③　本時のねらいや取り組む課題を黒板に明記し、めあてや取り組むべきことがわかりやすくなるような工夫を板書・発問に施す。

３　プランの評価方法

（１）学期ごとに授業アンケートを実施し、変容を確認する。

（２）定期テストごとの振り返りシートを活用し、定着状態や学習状況を確認する。